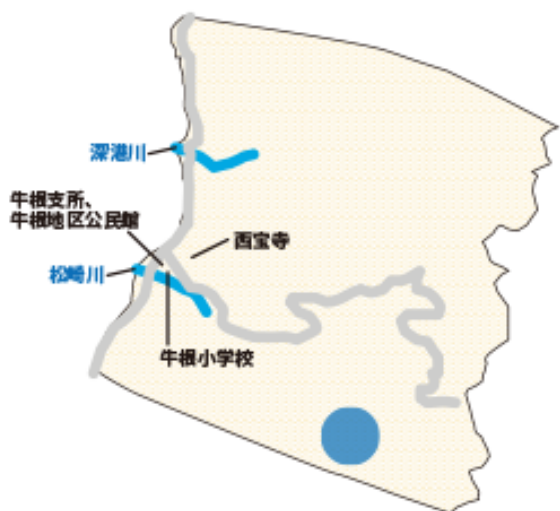




多くの地区住民が参加する岳野グラウンドゴルフ大会。



岳野振興会

TAKENNO SHINKOU-KAI

標高 490 メートル、きれいな星空が自慢のまち

岳野入植の記録
明治十七年（1884）、元は帆かけ舟を使って通商を行っていた中浜集落の村下万次郎氏が、た中浜集落の村下万次郎氏が、航行中に舟が難破し、海岸での生活をあきらめ、浜屋清八氏、中間新太郎氏と共に三名で新天地を求めて岳野へ入植したのがはじまりだったといわれています。当時は「嶽野」と表記し、開墾生活は困難を極めました。切り開いた畑に陸稲やサツマイモなどを耕作し、年々移住者も増え、明治三十二年は世帯が二十八戸となり、にぎやかさを増していったそうです。また、農業のほかには木炭の製造も力を入れて現金収入にしました。さらに、主食がサツマ

岳野小学校の思い出

入植以降人口は増加し続け、明治三十三年、岳野小学校が開校し、平成二年の休校までの九十年間、地域の皆さんに親しまれました。

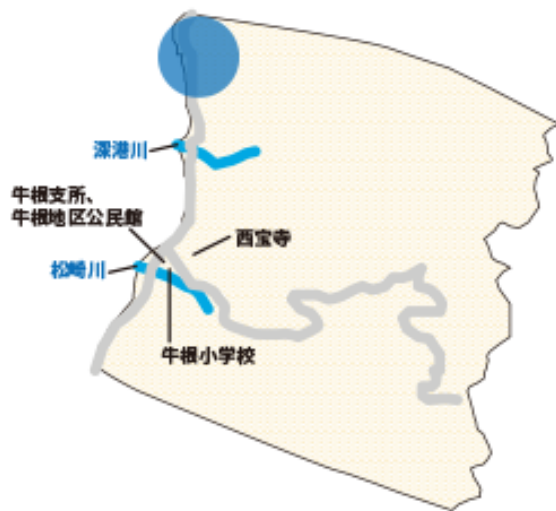


→終了後はバーベキューを行い、交流を深めます。

**大盛況！
8月恒例
岳野グラウンド
ゴルフ大会**
夏でも冷涼な気候を活かし、毎年8月、牛根地区公民館を主体にグラウンドゴルフ大会を開催しています。

浮津振興会

UKITSU SHINKOU-KAI



漁船が多く停泊する浮津港は、釣リスポットとしても人気があります。

天然の良港「浮津港」のある、海が近いまち

天子神社
約三百年前、浮津は天然の良港として漁民の集まる場所としてた。当時は蛭子神社と表記されており、「蛭」は魚取りという意味で、これに当て字として「天子」を使っているといわれています。「ある夜、魚取りに出たものたちが大風に遭い、多くの人命を失った。そして一部の者たちは現在の境へ移住した」という言い伝えも残っています。



「浮津」の由来？

この近くに、関が原の合戦に敗れた、岡山城主の宇喜多秀家の上陸し、辺田に隠れ住んだため、宇喜多（浮田）から、浮津になったという言い伝えがあります。また、この港には、以前高くないタコの木があり、秀家が腰掛けたという話もありますが、定かではありません。

初午祭（馬踊り）

古くは初午祭を行っており、鹿兒島神宮で奉納して浮津でも馬踊りを行い、大変見ごたえのあるものだったといわれています。



昔の浮津港

